

令和5年度 第1回白根巨摩中学校自己評価書（前期）

令和5年8月23日作成

校長 笹本 忠彦

記述者 教頭 小林 紀浩

学校教育目標

「思いやりの心と主体性・創造性を備えた白根巨摩中生の育成」

- ・学ぶ喜び・創り出す喜びを知り、主体的に学習する生徒
- ・正義を尊び、思いやりをもつ心豊かな生徒
- ・素直に見聞きし、考え、お互いを高め合う生徒
- ・心身ともに健康で、たくましく生きる生徒

取組重点

- 1 学習意欲と確かな学力の向上
 - ①教材研究の充実、効果的な授業の組み立て、学び合いを通しての深い学びの実現
 - ②信頼関係が保障される学級集団づくり
 - ③ICTの積極的な活用
 - ④家庭学習のさらなる改善
- 2 教育課程の改善と小中一貫教育に向けた取組の推進
 - ①本校の特長を生かす教育課程への改善
 - ②9年間を見通した教育課程の編成と改善
 - ③小中間での交流の推進（職員、児童生徒）
 - ④小中一貫教育に関する保護者・地域の理解の促進
- 3 生徒会活動における「4つのこだわり」と創造的な特別活動の推進
 - ①生徒会が掲げる「4つのこだわり」（挨拶、清掃、時間、服装）の、生徒主体での推進・充実
 - ②これまでの成果をもとにした創造的な特別活動の推進

I 全体評価

※A：5点、B：4点、C：2点、D：1点と数値で換算し、平均4.5を目標と考えた。今年度も引き続きこの指標を使い学校評価について考えていきたい。なお、生徒アンケートについては例年平均4.0を目標としている（令和5年度前期は全ての項目が4.0を上回った）。

全21項目中18項目（昨年度前期21項目中16項目）が目標を上回る結果となった。得点分布に関しては以下のとおりである。

- 4.5以上：18項目、4.4以上4.5未満：0項目、4.3以上4.4未満：2項目
4.1以上4.2未満：0項目 4.0以下：1項目

コロナの5類への移行に伴い、学校生活がコロナ前の活動に戻りつつある中、総合的な平均が4.6となったことは、職員の各々の意識や実践が高い水準を保っていると評価できる。学習においては、新学習指導要領の完全実施3年目となり、教科指導や評価に関しても徐々に共通理解が図られてきており、校内研の研究テーマのもと、少しずつ授業の中での話し合い活動も増えてきている。評価に関しては、3観点の資質能力でみとる学習評価の定着が進みつつあるが、観点のごとの評価の方法等については今後もさらなる共通理解を図っていく必要がある。

課題となっているのは、家庭学習の定着、授業でのパソコン有効活用、部活動の指導の3点である。家庭学習については週末課題（タイアップ・チャレンジ）の取組が3年目となり、徐々に定着が図られている。今後は、家庭学習における課題の質や方法についても検討していきたい。1人1台端末の活用については教科や教師個人により扱いの差が生まれている。職員に対する研修も定期的に行いながら、職員間の情報共有を密にして、授業等での活用を推進していくとともに、端末の持ち帰りや家庭学習での活用についても推進していきたい。部活動の指導については、生徒との関わりやその競技等の結果など、教科等とは違う専門性等があり、依然として課題は多い。しかし、今年度は2つの部活動に部活動支援員の支援をいただいていることもあり、昨年度に比べて0.4ポイントの上昇となった。今後も引き続き地域との連携を含め、協議・検討していく必要がある。

II 各領域の評価	
1 学校運営	
達成状況	<p>◇領域平均は4.7であり、学校教育目標の具現化に向けて、職員の互いの協力体制が整っていると云える。</p> <p>◇報告、連絡、相談、確認を適切に行っていて、職場相互の信頼関係も良好である。</p> <p>◇校務分掌や各種委員会等への取組意識は高く、多くは達成度が高いと考えられる。</p> <p>◇「重点目標の取組」については平均4.6で、昨年度に比べて上昇した。コロナの5類への移行に伴い、コロナ以前の活動が戻ってきていることが要因と考えられる。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・職員一人ひとりが学校経営方針（教育重点目標）を十分に理解し、昨年度の成果と課題にもとづいた教育活動を生徒の実態に応じて相互に連携しながら推進していく。 ・学校全体の教育活動に対して、組織的に取り組めるように細部に対しても状況を共有し、共通理解の中で検討・改善を行っていく。 ・各自がライフワークバランスを意識し、勤務効率を考えた働き方について意識を高めるとともに、校務等へのICTの積極的な活用も図っていく。また、職員のメンタルヘルスについて、管理職が細心の注意を払うよう心がけ、同僚性・協働性のある職場の構築に心がける。
2 教科指導	
達成状況	<p>◇領域平均は4.3で、昨年度と変わらず、目標の4.5に及ばない。家庭学習とICTの活用に関しての課題が残っている。</p> <p>◇教師アンケート⑤「新学習指導要領を踏まえた授業改善や学習評価」は4.6となり、昨年度よりも0.1ポイント上昇した。教科指導や評価に関する共通理解が進んできていることがうかがえる。ただ、生徒アンケートの授業の領域の評価の「授業の楽しさ」「授業の分かりやすさ」の値が昨年度同様やや低い。このことも念頭に入れたさらなる授業改善が必要となる。</p> <p>◇教師アンケート⑦「家庭学習の定着」においては、昨年度とかわらず、4.3ポイントとなっている。「タイアップチャレンジ等」の週末課題の取組が定着し、すこしずつ成果は上がっているが、生徒アンケートの週末課題の取組についての肯定的回答が昨年度からわずかに下がるなど、さらなる取組の推進が必要となる。週末課題以外の家庭学習の定着についても、今後も検討していく必要がある。</p> <p>◇教師アンケート⑧「授業へのパソコンの導入」については、職員への研究も進み、共通理解は図られてきているが、まだまだ授業への積極的な活用については課題も残っている。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ以前の活動が戻りつつある中で、コロナ禍で控えていた話し合い活動なども積極的に取り入れた授業改善を通して、確かな学力の向上を図ってけるよう、校内研究の中で研究・研修を深めていく。 ・オンライン等も積極的に活用し、各種研修や研究会等への参加など、授業の指導方法の共有や職員の資質能力の向上が図れるようにする。 ・管理職による日常的な授業観察を通して、指導・助言を継続して行う。 ・一人一実践の授業提案を通して、各個人の授業力の向上を図る。また、同僚の授業を参観し、自分の授業に生かすとともに、同僚の授業力向上に貢献できるような助言をする。 ・1人1台端末の授業への活用方法を教科ごとに研究し、できるだけ日常的に使用する機会を増やしていく。定期的にICTに関する職員への研修を行い活用についての情報共有も進めて行く。 ・週末課題としての「タイアップ・チャレンジ」を継続し、家庭学習の時間の確保と、習慣化について粘り強い指導を行うとともに、1人1台端末を活用した家庭学習と授業とのリンクを図るようにする。また、生徒の連絡帳（やりとり帳等）や定期試験の学習計画表の取組表を活用して計画的に家庭学習を進めるように指導する。

3 生徒指導について	
達成状況	<p>◇生徒アンケート②「学校でのきまりや約束事を守る」の項目の得点は4.7であり、生徒自身がきまりや約束を守っているという自覚をもっている。生徒会の4つのこだわりも定着しており、生徒自身で自主的に問題を解決していこうという態度が育ってきている。</p> <p>◇平均得点は4.7で、組織的な対応によく取り組んでいるといえる。教師アンケート⑨「問題行動等の早期発見・早期対応・早期解決」の項目は、各担任・学年・生徒指導・部活動顧問等を中心に職員の共通理解のもと、学年の枠を超えて全体で指導が行われている結果とみることができる。ただ、生徒アンケート③「困ったときに相談できる先生」の項目は改善傾向がみられるものの、11%（昨年同時期13.5%）の生徒は否定的回答となっており、悩みを抱える生徒を学校が把握できない場面もあることが考えられる。</p> <p>◇不登校等のケース会議を関係機関と連携して定期的に行い、生徒・保護者の願いを丁寧に聴き取るよう心がけた。校内でも生徒支援会議を定期的に関き、各学年での支援する必要がある生徒について確認している。</p> <p>◇積極的に専門機関との連携を行うことで、外部連携のもとで多角的な観点からの指導・支援につなげることができている。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に各学年の生徒の状況を共有し、精神面や家庭環境等についてその行動から分析し学校としてのきまりや指導重点について職員が共通理解のもと、生徒の指導を行う。 ・問題行動が起こらないための未然防止として、生徒への声かけを積極的に行い、心の教育を充実させたい。 ・本校では「いじめに対する基本方針」のもと、年5回のアンケート調査と個人面談等が行われている。今後も報告・相談・記録などを丁寧に言い、必要に応じて関係機関とも連携していくようにする。 ・小学生時期からの人間関係についても引き続き見取り、その関係改善や他の生徒との係わりを大切にする。生徒の連絡帳の記述や、悩みごと調査の実施やその後の面談等により、相談できる体制は整え、さらに生徒とのコミュニケーションをとっていくようにする。
4 特別活動	
達成状況	<p>◇教員のアンケート結果は⑫「生徒の自治力の向上を目指し、計画的な指導を行っている」が4.5となり、目標は達成しているもののやや低い数値となっている。しかし、生徒アンケートの⑨「行事への協力」や⑩「合唱活動への意欲」については、肯定的回答が96%を超え、生徒たちが意欲をもって行事への活動を行っていることが分かる。</p> <p>◇教師アンケート⑬「部活動の指導」は4.4となり、目標には達していないものの、昨年度より0.4ポイント上昇した。生徒の技能を高めるための取組については、今年度から支援をいただいている部活動支援員による指導が効果を得ていると考える。授業以外に学年を越えた生徒活動を行う日常的な場面なので、生徒の健康安全面に注意しながら意欲を引き出し、結果のみにこだわらず、取組過程に自信をもたせるような指導をしていきたい。</p> <p>◇教師アンケート⑭「合唱」についても、昨年度から0.2ポイント上昇し、4.6ポイントとなった。今年度は本校の伝統となっている「ハレルヤ」合唱に4年ぶりに取り組むことができた。今後も、本校の特色のある活動としての合唱活動の推進を行っていきたい。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの5類への移行に伴い、学校行事もコロナ以前と同様の活動ができるようになってきている。状況に応じての感染対策等は行いながら、日常的な生徒活動も含めた自治的な活動を大切にしていきたい。 ・清掃については3年生を中心に、主体的な活動を育成する場となっている。今後も、主体性を引き出す取組を計画的に工夫していきたい。生徒会本部・学年生徒会・学級役員を中心に、自治的活動の基本となるような取組としたい。 ・今年度部活動の大会は、概ね例年通り行われた。これまで同様毎週月曜日を「部活動なしの日」とするとともに、月に2回の割合で、月曜日は放課後に部活動や会議を行わない「きずなの日」とし、休日の部活動年間活動日数を69日以下にするよう定めている。今後も、これら部活動の負担軽減計画を確実に実施していく。

5 健康安全 信頼される学校	
達成状況	<p>◇平均得点は4.8で目標数値を大きく超えている。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防対策は、安全で安心な学校生活を送るために必要に応じて行っている。そのため、「生徒の健康安全」や「感染防止対策への取組」については非常に意識が高く、生徒への指導もきめ細やかに行っていることがわかる。また、校舎の設備の整備についても意識が高いが、危険を予測する中で、さらなる環境整備を行っていく必要がある。</p> <p>◇必要に応じた感染症防止対策に対する生徒への指導を行うとともに、熱中症対策や通学路の安全確保、自転車の乗り方を含めた下校指導等についてきめ細かい指導を行った。</p> <p>◇不審者情報や非常変災に備えて安全安心メールへの全家庭の登録をお願いしている。今年度は県や市の教育委員会からの指導も含め、メールやホームページの活用をし、家庭に状況を素早く伝え、不安や不明な状況が無いよう努めた。今後も危機管理を強化していくことに加え、保護者にとって必要な情報を迅速に提供できるよう心がけていきたい。</p> <p>◇「健康安全」「信頼される学校」の領域はすべての領域の中でも最も高い評価となった。全職員が生徒にたいして意識を高くし、生徒一人ひとりに対するきめ細やかな指導を行うよう心掛けていることがわかる。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検により、校舎内外の危険箇所や破損箇所への対応を行ってきているので、さらに注意深く取り組みたい。 ・コロナが5類へ移行したが、感染症への対策は引き続き状況に応じて臨機応変に対応し、生徒への教育活動を充実させていく。そのために、互いに協力・理解し合い指導を進めていく。 ・生徒への見取りをきめ細かく行い、様々な問題を未然に防いでいく。 ・リスクの先にある重大事態＝危機（クライシス）を想定し、学校事故の未然防止について組織的に共通理解する。 ・登下校時も職員の見守り指導を定期的実施し、安全な登下校指導を推進していく。 ・部活動の指導について、様々な場面を想定し安全対策を検討していく。 ・「学校だより」「学年だより」「給食・保健・図書・進路だより」等学校からの情報発信を積極的に行うとともに、「やり取り帳」「悩み事・心配事調査」等を通して家庭との連携を密にし、生徒の健全育成に向けて一層努力していく。